

生研 ニュース

IIS NEWS
No.184
2020.6



●情報・エレクトロニクス系部門
教授

喜連川 優

IIS
TODAY

本号の表紙を飾って頂いたのは、情報・エレクトロニクス系部門の喜連川優教授です。喜連川先生のご専門はデータベース工学で、「大規模高性能データベースシステムの理論と応用に関する先駆的研究」のご功績により、令和2年度日本学士院賞を4月にご受賞になりました（写真のお花はそのお祝いで頂いたものだそうです）。近年創案された非順序型実行原理に基づく超高速データベースエンジンは、ビッグデータ処理において従来方式の1000倍を超える飛躍的高速化を達成されており、産業界で実用化されているほか、レセプトデータベースの高速解析に利用することで医学的知見の導出や地方自治体での医療施策の立案にも繋がっています。一方で、37年に渡り構築されてきたDIAS (Data Integration and Analysis System) と呼ばれる地球環境情報プラットフォームや、21年に渡り継続して収集・構築されてきた日本語ウェブアーカイブなど、継続的な維持により価値を生み出す息の長い仕事も行われています。

これまで、情報爆発プロジェクトやFIRST、ImPACTなど様々な大規模プロジェクトを推進され、現在も国立情報学研究所の所長や日本データベース学会会長として多忙な日々を送られている喜連川先生ですが、来年春に定年を迎えられます。学生時代より20年に渡り喜連川先生と共同で研究をされてきた合田和生准教授に喜連川先生のことを伺ったところ、喜連川先生の時代の先を見通す力に何より感服されていました。私自身も12年に渡り先生と一緒に研究させて頂く中で、東日本大震災や今回のコロナ禍を通して、情報処理研究者として自分たちが何をできるか、という喜連川先生の強い使命感に感銘を受けてきました。喜連川先生が、新型コロナウイルスで情報通信回線が逼迫することを予見していち早く通信量の削減を呼びかけた「データダイエット」など、今後も先生のご慧眼に感銘を受ける機会が数多くあることを期待しています。

(広報室 吉永 直樹)

CONTENTS

REPORTS

March

- 3 「宇宙への招待」講演会
- 4 アーバンデータチャレンジ2019 with
土木学会インフラデータチャレンジ2019・最終審査会 & 公開シンポジウムを開催
- 5 寄付研究部門シンポジウム2020『車両運動制御とHMIから見た自動運転の未来』を開催
- 6 臨時生研サロンの開催報告
- 7 研究にまつわるクイズと動画で親子を応援 生研Facebook企画「#休校中親子でクイズ」「#休校中動画で学ぼう」

PRESS RELEASE

March

- 8 記者発表「AI画像認識アルゴリズムを搭載した光学顕微鏡を開発
～ 原子層を積み重ねた新規材料開発を大幅加速～」
- 8 記者発表「液体は固体上をどのように滑るのか」

April

- 8 記者発表「有機超弾性結晶の発光クロミズム～小さな力で分子配列を変換し発光色の可逆制御を有機結晶で実現～」

May

- 9 記者発表「海中・海底の観測を効率化する新しいドローンを開発～高いリアルタイム性や機動性の実現に向けて～」
- 9 共同発表「平塚波力発電所の海域実証試験を開始(発表主体:平塚市)」

June

- 9 記者発表「引力相互作用は過冷却液体の構造を変える」

VISITS

PERSONNEL

AWARDS

INFORMATION

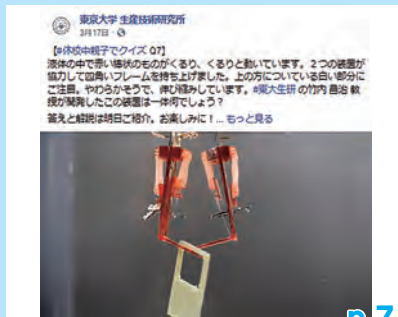
PROMENADE

My stay in a beautiful environment
(物質・環境系部門 国際研究員 LEVI, Timothée)

FRONTIER

大規模機械学習によるアピランスベース視線推定
(情報・エレクトロニクス系部門 准教授 菅野 裕介)

p.3



p.7

p.19



東大駒場リサーチキャンパス公開 2020 の中止について

本年6月に予定しておりました、東大駒場リサーチキャンパス公開 2020 につきまして、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を受け、開催を中止することとなりました。皆さまのご理解のほどよろしくお願いいたします。

「宇宙への招待」講演会

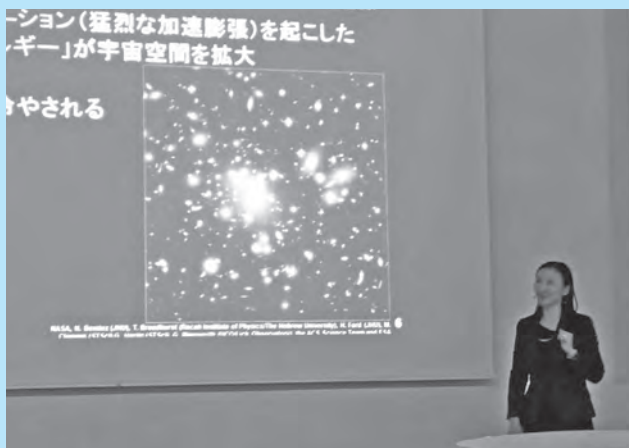
3月6日(金)、「宇宙への招待」講演会が、本所S棟プレゼンテーションルームにて開催された。本講演会は、本所の教職員と大学院生を対象として、宇宙に対する関心を深めることを目的に企画されたものである。

講演会では、機械・生体系部門 川越 至桜 准教授が「冬のダイヤモンドから宇宙に想いを馳せる」というタイトルで講演を行った。導入部においては冬の星空を示し、全天に21個しかない1等星のうち7個がオリオン座の周りに集まっている豪華さを紹介した。また、ベテルギウスの変光が超新星爆発の予兆を示している可能性にも言及した。次に、惑星の大きさや距離の概念を国立天文台が開発した天文シミュレーションソフトMitakaを使って分かり易く説明した。講演の後半

では、宇宙の広がり、星の一生、超新星爆発とニュートリノなどについて紹介し、原子や元素の誕生の仕方、爆発によって散らばった星屑が集まって新しい星が誕生すること、などについて解説した。

1時間の講演の後、多岐に渡る質問が多数あり、関心の高さがうかがわれた。ディスカッションタイムも1時間予定したが、あっという間に定刻を過ぎた。参加者は、宇宙図のコピーと星の一生が印刷されたアストロノミカルトイレットペーパーを手土産に満足して帰途についた。S棟から外に出ると冬のダイヤモンドが輝いていた。

(物質・環境系部門 教授 畑中 研一)



ビッグバンのインフレーション理論を解説



冬のダイヤモンドを紹介



アストロノミカルトイレットペーパーを説明



講演会場全体の様子

アーバンデータチャレンジ2019 with 土木学会インフラデータチャレンジ2019・最終審査会&公開シンポジウムを開催

3月14日(土)に、本所An棟コンベンションホールとテレビ会議形式を併用し「アーバンデータチャレンジ(UDC)2019」の1年間を総括する最終シンポジウムが開催された。本取り組みは、2013年度より主に本所と、本学 空間情報科学研究センター、一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会のほか、2019年度から土木学会「インフラデータチャレンジ(IDC)」とも共同運営し、社会基盤情報を用いた地域課題解決を掲げた通年型のワークショップと公募型コンテストとの融合が特徴である。

本シンポジウムでは、人間・社会系部門 関本 義秀准教授が実行委員長として日本全国41拠点での活動(延べ80回・累計約1400名の参加者)やコンテストの応募概要について紹介した後、ローカルビジネスとシビックテックの盛り上げ方や、デジタルアーカイブの活用

に関する対談が行われた。

当日のメインイベントである最終審査会には、全国から応募された162作品の中から一次審査を通過した15作品についてのプレゼンテーションが実施され、参加者投票により受賞作品を最終決定した。2019年度は地域アーカイブとデジタル技術を融合する作品が多く、全国の高校生や大学生チームによる意欲的な作品も約半数に及んだ。2020年度は本所「デジタルスマートシティイニシアティブ社会連携研究部門」とも連携しながら、地域のデジタル化や、シビックテックコミュニティのつながりの強化への支援などを続けながら活動を発展させる予定である。

(人間・社会系部門 准教授 関本 義秀、
空間情報科学研究センター 特任講師 瀬戸 寿一)



オンラインツールを併用した対談の様子



金賞(石造物3Dアーカイブ)受賞式の様子

寄付研究部門シンポジウム2020 『車両運動制御とHMIから見た自動運転の未来』を開催

3月23日(月)、シンポジウム『車両運動制御とHMIから見た自動運転の未来』が開催された。2018年12月1日に設立された自動運転の車両運動制御寄付研究部門が主催した本シンポジウムは、年吉 洋 副所長による開会の挨拶で始まった。寄付研究部門の特任教授を兼任する須田 義大 教授から本寄付研究部門の設立経緯と取組みの概要について、寄付研究部門所属の平岡 敏洋 特任教授と小野 晋太郎 特任准教授からは、車両運動制御、Human Machine Interface (HMI)、センシングなどの、自動運転や運転支援の要素技術に関するこれまでの研究内容と今後の研究予定が発表された。

また、自動運転技術の社会普及に関係する官公庁からの招待講演として、内閣官房情報通信技術総合戦略室の平井 淳生 参事官に「ITS・自動運転に係る政府の取組について」という題目でご講演いただいた。さ

らに、本寄付研究部門の寄付元である株式会社ジェイテクトの研究企画部渉外グループ・グループ長である川原 禎弘 氏から「自動運転を支えるステアリングのエッジテクノロジー」のタイトルで特別講演をいただいた。

当初、本所 コンベンションホールに来場者を迎えて開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、Zoomによるオンライン配信による開催となった。開催日の約2週間前に開催形式を変更することになったが、事前参加登録者数は400名を超え、視聴者数は瞬間最大で300名弱に達した。シンポジウムの最後に、視聴者から寄せられた質問やコメントに対して講演者全員で回答し議論するセッションを設けたが、活発な意見交換ができた。初のオンラインシンポジウムであったが、盛況のうちに幕を閉じることができたといえよう。

(機械・生体系部門 特任教授 平岡 敏洋)



年吉副所長



須田教授



平井参事官



川原氏



平岡特任教授



小野特任准教授



Zoomで寄せられた質問を司会者が伝えて、講演者たちが回答する質疑応答セッション

臨時生研サロンの開催報告

3月23日(月)の夕刻に、令和元年度4回目となる生研サロンがウェビナー形式で開催された。新型コロナウイルスの感染拡大を受けた緊急企画であり、「生研課題解決ミッション：新型コロナウイルスに対して」をテーマとして、事実関係を所内で共有するとともに、解決に向けて貢献できることを探る目的で開催された。まず、情報・エレクトロニクス系部門 年吉 洋 教授から感染が拡大する国の統計データを生物の増殖モデルで解析することで得られた知見が報告された。MEMSを専門にする先生がなぜ?と驚いた方も多かったと思うが、感染者数推移の傾向をおおむね予測できていることに感銘を受けた。次に同部門 合原 一幸 教授から感染流行の数理モデルに関する話題提供があり、インフルエンザやバスタへの適用例が紹介された。グラフで可視化しながら、流行を防止するためには継続的な感染対策が不可欠であることが分かりやすく解説された。続いて機械・生体系部門 甲斐 知恵子 特任教授から、エマージングウイルス感染症について、ウイルスとは

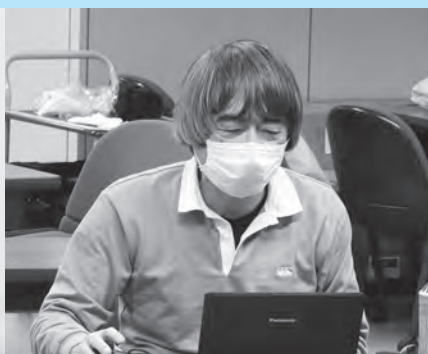
何か、その歴史や人類の進化との関係、技術発展によるウイルスとの闘い、我々が今すべきことなどについて広く話題提供があった。ウイルスは撲滅できないものであり、どのようなものかを知ったうえで正しく怖がり、適切に付き合っていく必要があるとの言葉には説得力があった。最後に藤井 輝夫 本学理事・副学長が、緊急時に大学や生研が即座に対応することの重要性と意義について述べ、閉会となった。

学生にも公開された今回の生研サロンでの接続数は100を超え、関心の高さがうかがえた。ウェビナー参加者からは、通常生研サロンよりも敷居が低く参加しやすかった反面、質問は通常よりも辛かったとの意見があった。今回のサロンで、情報共有の新たな選択肢を実感するとともに、ホットトピックに関する企画が迅速に実現できる生研の、研究守備範囲の広さと機動力が光ったサロンであった。

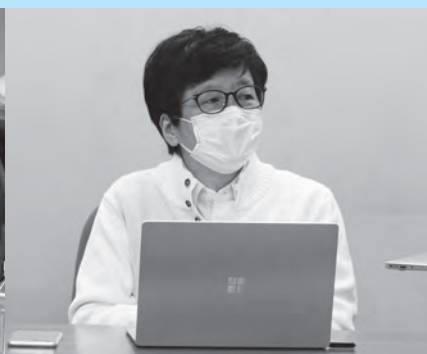
(企画運営室 准教授 野村 政宏)



年吉教授



合原教授



甲斐特任教授

研究にまつわるクイズと動画で親子を応援 生研Facebook企画「#休校中親子でクイズ」「#休校中動画で学ぼう」

3月5日(木)から4月1日(水)にかけて、本所の研究トピックスをクイズ形式で紹介する「休校中親子でクイズ」と、次世代育成オフィス(ONG)の映像教材を紹介する「休校中動画で学ぼう」を生研Facebook(FB)上で配信した。新型コロナウイルス感染症対策のため多くの学校が休校となる中、子どもたちと保護者の方々を応援しようと企画したもの。広報室員が教員に取材をして記事にしたり、過去の魅力的な映像やFBの投稿記事を編集したりして、毎日のように記事を公開した。生研FBは2019年5月に開設し、1年を迎える。2020年4月末時点でフォロワー数は500人を超えた。

「休校中親子でクイズ」では、目を引く画像や動画を選び、計11トピックスを紹介した。巻俊宏准教授が開発する「ウミガメ自動追尾海中ロボットの始まり」、腰原幹雄教授の「素材の個性をいかす木造建築」や酒井雄也准教授の「ボタニカルコンクリート」、池内与志穂准教授の「iPS細胞から作製する運動神経束」や砂田祐輔准教授の「貴金属フリー触媒」、竹内昌治教授の「バイオハイブリッドロボット」や沖一雄特任教授の「音声を活用した生態調査」、価値創造デザイン推進基盤の「OMNI(Ocean Monitoring

Network Initiative)」や芳村圭教授の「同位体比から解き明かす水循環」、そして国際フランス語デーにあわせてLIMMS/CNRS-IIS(UMI2820)国際連携研究センターの紹介も行った。トランジスタにまつわる、小林正治准教授自作のクイズも登場した。「休校中動画で学ぼう」では、2016年度の飛行機ワークショップ「飛行機の飛ぶしくみを学ぼう」から2018年度の「未来材料：チタン・レアメタル」まで、ONGの映像教材3本を紹介した。

本企画をとおしてFBのフォロワー数は2割ほど増加した。本企画の告知記事には、これまでの記事に比べて格段に多い「いいね!」やシェアの反応があり、広く拡散された。今後も社会のニーズに寄り添い、これまでリーチできなかった人々にも本所の姿を伝えたい。

非常時にも関わらず、取材対応や記事のブラッシュアップにご協力くださった先生方に、感謝申し上げます。これからも情報をお寄せください。また、本所の動向チェックに、生研FBをぜひのぞいてみてください。

生研FB：<https://www.facebook.com/UTokyo.IIS.jp/>

(広報室 准教授 松山桃世)

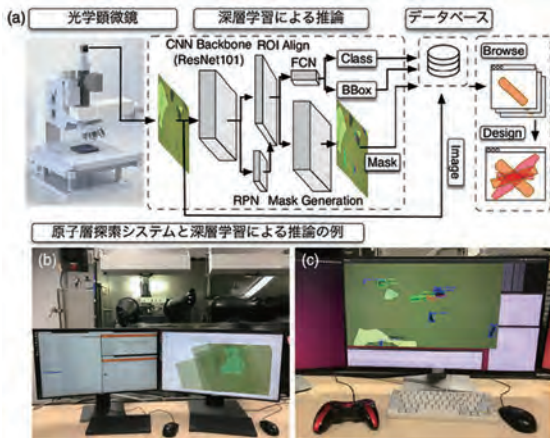


P R E S S R E L E A S E

[3月23日記者発表]

AI画像認識アルゴリズムを搭載した光学顕微鏡を開発 ～原子層を積み重ねた新規材料開発を大幅加速～

基礎系部門 特任講師 増淵 覚、教授 町田 友樹



AI画像認識を使って、光学顕微鏡像から目的のシート状の原子層を、全自動で探索する光学顕微鏡システムを開発した。

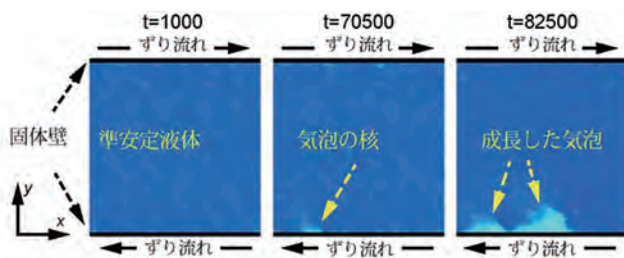
熟練の研究者が長時間かけて行っていた認識作業を、ほぼリアルタイムで、90%以上の確率で再現することが可能となり、希少な単原子層を使った複合原子層の作製が可能になった。圧倒的な作業効率の向上により、新規材料の開発スピードを飛躍的に向上させる技術として期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/3270/>
掲載誌：npj 2D Materials and Applications
(オンライン版)
DOI：10.1038/s41699-020-0137-z

[3月28日記者発表]

液体は固体上をどのように滑るのか

基礎系部門 教授 田中 肇



固体の上を液体が流れるとき、ある流速を超えると液体が固体表面上をスリップしているように見える現象が知られているが、今回、その機構を解明した。

これまで、液体と固体の間に気体相が形成されると仮定すると、スリップ現象を自然に説明できることは知られてきたが、液体の粘性が密度に依存することに起因して、流れにより密度の揺らぎが増幅され、その結果、流速の増大により密度の揺らぎが増大し、ついには気体相が生成されるという新しいメカニズムを示した点に新奇性がある。

この成果は、液体と固体の間のスリップ現象の物理的起源を解明し、その制御の指針を示した点に最大のインパクトがある。スリップを誘起することができれば、流体の輸送に伴うエネルギー損失の低減につながるなど、実用的にも有益な成果といえる。

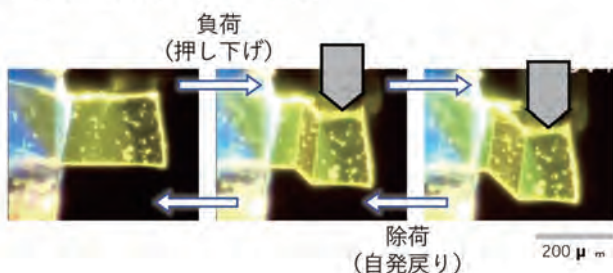
<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/3271/>
掲載誌：Science Advances
DOI：10.1126/sciadv.aaz0504

[4月14日記者発表]

有機超弾性結晶の発光クロミズム ～小さな力で分子配列を変換し発光色の可逆制御を有機結晶で実現～

物質・環境系部門 助教 務台 俊樹

「超弾性発光クロミズム」



本所 務台 俊樹 助教、北條 博彦 准教授、横浜市立大学大学院生命ナノシステム科学研究科の高見澤 聡 教授、佐々木 俊之 助教らは、機械的刺激による擬弾性的な結晶相変化により発光色が変わる「超弾性発光クロミズム」を示す有機超弾性体を見いだした。分子性有機単結晶で超弾性発光クロミズムを初めて実証し、二色の発光の割合を任意に制御可能な新しい固体発光材料につながる成果を得た。形状記憶合金で知られる超弾性体は原子性の金属固体であるため、メカノクロミズムを示す分子性超弾性体の基礎はこれまで未解明である。本成果は化学的手法による超弾性の厳密な機械的変形性を有するクロミズム材料の開拓に新しい指針を与え、高い設計性を持つ新しいセンシング材料開発を可能とするものである。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/3285/>
掲載誌：Nature Communications
DOI：10.1038/s41467-020-15663-5

PRESS RELEASE

【5月13日記者発表】

海中・海底の観測を効率化する新しいドローンを開発 ～高いリアルタイム性や機動性の実現に向けて～

海中観測実装工学研究センター 講師 横田 裕輔



本所 海中観測実装工学研究センターの横田 裕輔 講師と株式会社プロドローンは、船舶やブイによる観測で不足する高いリアルタイム性や機動性を実現した2つの海洋観測用ドローンを開発し、実海域での実験で十分な観測能力があることを示した。

1つ目は、海洋観測機器の自動投下・データ収録機能を搭載し、荒天の時間帯もあった中、同一地点を繰り返し観測できることを確認した。2つ目は、海面着水機能を付すことで海面において精密衛星測位の機能が実現され、海面保持性能と十分な位置データや動揺データを記録が可能であること、また機動的ブイ観測が可能であることが示された。

今後、海洋情報のリアルタイム取得・海洋観測の安価化が可能である。機体性能や動力源などの研究・開発により、資源探査や測地・測量などの広い利用用途を達成する海洋観測ドローンの実現が期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/3296/>
海中観測実装工学研究センター <http://seasat.iis.u-tokyo.ac.jp>

【5月28日共同発表】

平塚波力発電所の海域実証試験を開始 (発表主体：平塚市)

海中観測実装工学研究センター 教授 林 昌奎



平成 30 年 10 月に、本所 林 昌奎 教授を代表とするグループの提案が、環境省の公募事業に採択され、世界に先駆けて実用化ベースとなる新型波力発電装置を製作し、完成させた。

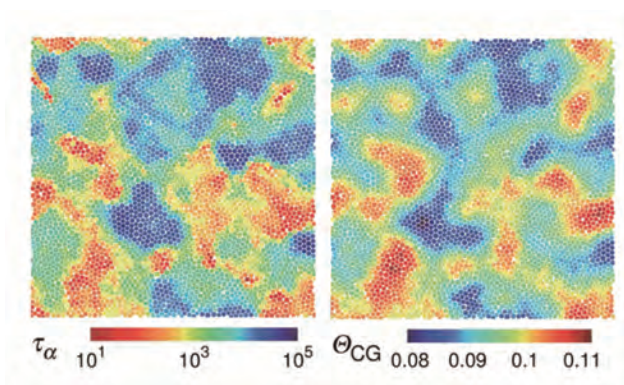
令和 2 年 2 月に発電装置を平塚新港防波堤前面に据付け、既設送電線に系統連系、経済産業省の使用前検査に合格後、平塚波力発電所として正式に稼働し、1 年間の海域実証試験を開始した。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/3303/>
海中観測実装工学研究センター 林研究室
<http://seasat.iis.u-tokyo.ac.jp/rheem/>
発表主体：平塚市

【6月2日記者発表】

引力相互作用は過冷却液体の構造を変える

基礎系部門 教授：研究当時 田中 肇



密度の高いガラス転移点付近の液体の構造は、液体を構成する粒子同士の斥力相互作用で決まり、引力相互作用には依らないと考えられてきた。今回、この従来の考え方に反し、実際には引力相互作用が液体の構造を大きく変え、その結果、粒子の動き（ダイナミクス）にも多大な影響を与えることを発見した。

この成果は、長年の未解明問題であったガラス形成物質の遅いダイナミクスの起源が、液体の構造にあることを示唆した点に最大のインパクトがある。液体のダイナミクスと構造の関係の理解に大きく貢献すると期待される。

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/3305/>
掲載誌：Physical Review Letters
DOI：10.1103/PhysRevLett.124.225501

■修士研究員

氏名	国籍	期間	受入研究室
MCCORMACK, Leo Sean	イギリス	2020/ 7/ 8 ~ 2020/ 9/ 1	基礎系部門 羽田野 直道 教授

■東京大学特別研究員

氏名	国籍	期間	受入研究室
SINGH, Govind Dayal	インド	2020/ 4/ 1 ~ 2022/ 3/31	基礎系部門 芦原 聡 教授
野村 啓太	日本	2020/ 4/ 1 ~ 2023/ 3/31	物質・環境系部門 溝口 照康 教授
呉 元錫	韓国	2020/ 4/ 1 ~ 2021/ 3/31	人間・社会系部門 坂本 慎一 教授
米村 美紀	日本	2020/ 4/ 1 ~ 2021/ 3/31	人間・社会系部門 大岡 龍三 教授

PERSONNEL

■人事異動

生産技術研究所 教員等 (退職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 3.31	田中 肇	定年退職	-	教授 基礎系部門
R2. 3.31	合原 一幸	定年退職	東京大学総長室特別教授室・特別教授 (東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構副機構長)	教授 情報・エレクトロニクス系部門
R2. 3.31	村松 伸	定年退職	-	教授 人間・社会系部門
R2. 3.31	斎藤 敏夫	定年退職	-	助教 情報・エレクトロニクス系部門
R2. 3.31	光田 好孝	早期退職	-	教授 物質・環境系部門
R2. 3.31	小倉 正平	辞職	-	助教 基礎系部門
R2. 3.31	貝塚 勉	辞職	-	助教 機械・生体系部門
R2. 3.31	赤川 賢吾	辞職	-	助教 物質・環境系部門
R2. 3.31	趙 齊	辞職	-	助教 人間・社会系部門

(学内異動(出))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 4. 1	松井 勇佑	昇任	講師 大学院情報理工学系研究科	助教 附属ソシオグローバル情報工学研究センター

(学内異動(入))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 4.16	井上 純哉	配置換	准教授 附属大規模実験高度解析推進基盤	准教授 先端科学技術研究センター

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 4. 1	芦原 聡	昇任	教授 基礎系部門	准教授 基礎系部門
R2. 4. 1	酒井 雄也	昇任	准教授 人間・社会系部門	講師 人間・社会系部門
R2. 4. 1	菊本 英紀	昇任	准教授 人間・社会系部門	講師 人間・社会系部門

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 4. 1	羽田野直道	配置換	教授 附属大規模実験高度解析推進基盤	教授 基礎系部門
R2. 4. 1	白杵 年	配置換	教授 附属大規模実験高度解析推進基盤	教授 機械・生体系部門
R2. 4. 1	北澤 大輔	配置換	教授 附属大規模実験高度解析推進基盤	教授 附属海中観測実装工学研究センター
R2. 4. 1	芳村 圭	配置換	教授 附属大規模実験高度解析推進基盤	教授 人間・社会系部門
R2. 4. 1	李 宰河	配置換	助教 附属大規模実験高度解析推進基盤	助教 基礎系部門
R2. 4. 1	吉田 毅郎	配置換	助教 附属大規模実験高度解析推進基盤	助教 機械・生体系部門
R2. 4. 1	新田 友子	配置換	助教 附属大規模実験高度解析推進基盤	助教 人間・社会系部門
R2. 4.16	林 憲吾	昇任	准教授 人間・社会系部門	講師 人間・社会系部門

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 4. 1	松山 桃世	採用	准教授 人間・社会系部門 松山研究室	学術支援専門職員
R2. 4. 1	杉原 加織	採用	講師 物質・環境系部門 杉原研究室	-
R2. 4. 1	森近 一貴	採用	助教 基礎系部門 芦原研究室	-
R2. 4. 1	UMAR MUHAMMAD	採用	助教 基礎系部門 清田研究室	-
R2. 4. 1	PARK JONGHO	採用	助教 機械・生体系部門 金(範)研究室	特任研究員
R2. 4. 1	楊 波	採用	助教 機械・生体系部門 中野研究室	特任研究員
R2. 4. 1	名波 拓哉	採用	助教 情報・エレクトロニクス系部門 河野研究室	特任研究員

PERSONNEL

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 4. 1	梅本 和俊	採用	助教 情報・エレクトロニクス系部門 豊田研究室	特任助教(特定短時間)
R2. 4. 1	青木 佳子	採用	助教 人間・社会系部門 川添研究室	特任助教

(任期付教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 4. 1	木崎 和郎	採用	助教 物質・環境系部門物質・ 材料高度活用分野 井上研究室	特定研究員 京都大学化学研究所
R2. 4. 1	志村 努	任期更新	教授 附属光物質ナノ科学研究 センター応用非線形 光学分野	-
R2. 4. 1	須田 義大	任期更新	教授 機械・生体系部門制御 動力学分野	-
R2. 4. 1	平川 一彦	任期更新	教授 附属光物質ナノ科学研 究センター量子半導体 エレクトロニクス分野	-
R2. 4. 1	井上 博之	任期更新	教授 附属持続型エネルギー・ 材料統合研究センター物質・ 材料高度活用分野	-

(所長・附属研究施設長)

発令年月日	氏名	異動内容	新兼務職名	旧兼務職名
R2. 4. 1	福谷 克之	兼務	副所長	-
R2. 4. 1	吉江 尚子	兼務	副所長	-
R2. 4. 1	年吉 洋	兼務	副所長	-
R2. 4. 1	福谷 克之	兼務	附属大規模実験高度解 析推進基盤長	-
R2. 4. 1	北澤 大輔	兼務	附属大規模実験高度解 析推進基盤副基盤長	-
R2. 4. 1	吉江 尚子	兼務	附属価値創造デザイン 推進基盤長	-
R2. 4. 1	高橋 琢二	兼務	附属マイクロナノ学際 研究センター長	-
R2. 4. 1	年吉 洋	兼務	附属マイクロナノ学際研 究センター副センター長	-
R2. 4. 1	岡部 徹	兼務	附属持続型エネルギー・ 材料統合研究センター長	-
R2. 4. 1	吉江 尚子	兼務	附属持続型エネルギー・ 材料統合研究センター 副センター長	-
R2. 4. 1	目黒 公郎	兼務	附属都市基盤安全工学 国際研究センター長	-
R2. 4. 1	桑野 玲子	兼務	附属都市基盤安全工学 国際研究センター副セ ンター長	-
R2. 4. 1	林 昌奎	兼務	附属海中観測実装工学 研究センター長	-
R2. 4. 1	志村 努	兼務	附属光物質ナノ科学研 究センター長	-
R2. 4. 1	平川 一彦	兼務	附属光物質ナノ科学研 究センター副センター長	-
R2. 4. 1	佐藤 洋一	兼務	附属ソシオグローバル 情報工学研究センター長	-
R2. 4. 1	豊田 正史	兼務	附属ソシオグローバル 情報工学研究センター 副センター長	-

(所長・附属研究施設長)

発令年月日	氏名	異動内容	新兼務職名	旧兼務職名
R2. 4. 1	加藤 千幸	兼務	附属革新的シミュレ ーション研究センター長	-
R2. 4. 1	吉川 暢宏	兼務	附属革新的シミュレ ーション研究センター副 センター長	-

(兼務教員)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
R2. 4. 1	大島 まり	兼務	教授 機械・生体系部門	教授 大学院情報学環
R2. 4. 1	藤井 輝夫	兼務	教授 機械・生体系部門	理事・副学長
R2. 4. 1	竹内 昌治	兼務	教授 機械・生体系部門	教授 大学院情報理工学系研 究科
R2. 4. 1	山中 俊治	兼務	教授 附属価値創造デザイン 推進基盤	教授 大学院情報学環
R2. 4. 1	岩本 敏	兼務	教授 情報・エレクトロニク ス系部門	教授 先端科学技術研究セン ター
R2. 4. 1	瀬崎 薫	兼務	教授 情報・エレクトロニク ス系部門	教授 空間情報科学研究セン ター
R2. 4. 1	尾張 真則	兼務	教授 物質・環境系部門	教授 環境安全研究センター
R2. 4. 1	沖 大幹	兼務	教授 人間・社会系部門	教授 大学院工学系研究科
R2. 4. 1	目黒 公郎	兼務	教授 附属都市基盤安全工学 国際研究センター	教授 大学院情報学環
R2. 4. 1	根本 利弘	兼務	准教授 情報・エレクトロニク ス系部門	准教授 地球観測データ統融合 連携研究機構
R2. 4. 1	小林 正治	兼務	准教授 情報・エレクトロニク ス系部門	准教授 大学院工学系研究科附 属システムデザイン研 究センター
R2. 4. 1	テイシエー 三田 アリエス	兼務	准教授 附属マイクロナノ学際 研究センター	准教授 先端科学技術研究セン ター
R2. 4. 1	上條 俊介	兼務	准教授 附属ソシオグローバル 情報工学研究センター	准教授 大学院情報学環
R2. 4. 1	沼田 宗純	兼務	准教授 附属都市基盤安全工学 国際研究センター	准教授 大学院情報学環
R2. 4. 1	山川 雄司	兼務	講師 機械・生体系部門	講師 大学院情報学環
R2. 5. 1	山川 雄司	兼務(免)	講師 機械・生体系部門	講師 大学院情報学環
R2. 5. 1	山川 雄司	兼務(命)	准教授 機械・生体系部門	准教授 大学院情報学環

(客員部門)

発令年月日	氏名	異動内容	職名・所属	本務職名・所属
R2. 4. 1	谷口 尚	委嘱 称号付与	客員教授 高次協調モデリング部門	-
R2. 4. 1	呉 光強	委嘱 称号付与	客員教授 機械・生体系部門	-
R2. 4. 1	檜 徹雄	委嘱 称号付与	客員教授 機械・生体系部門	-
R2. 4. 1	川口 勝義	委嘱 称号付与	客員教授 附属海中観測実装工学 研究センター	-
R2. 4. 1	小野 謙二	委嘱 称号付与	客員教授 附属革新的シミュレ ーション研究センター	-

PERSONNEL

(客員部門)

発令年月日	氏名	異動内容	職名・所属	本務職名・所属
R2. 4. 1	寒川 哲臣	委嘱称号付与	客員教授 附属光物質ナノ科学研究センター	-
R2. 4. 1	大和田秀二	委嘱称号付与	客員教授 附属持続型エネルギー・材料統合研究センター	-
R2. 4. 1	山口 勉功	委嘱称号付与	客員教授 附属持続型エネルギー・材料統合研究センター	-
R2. 4. 1	柴山 敦	委嘱称号付与	客員教授 附属持続型エネルギー・材料統合研究センター	-
R2. 4. 1	天野 肇	委嘱称号付与	客員教授 人間・社会系部門	-
R2. 4. 1	伊藤 哲朗	委嘱称号付与	客員教授 附属都市基盤安全工学国際研究センター	-

(寄付研究部門等)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
R2. 4. 1	志村 努	兼務	特任教授 ニコイメージングサイエンス寄付研究部門	教授 附属光物質ナノ科学研究センター
R2. 4. 1	岡部 徹	兼務	特任教授 非鉄金属資源循環工学寄付研究部門	教授 附属持続型エネルギー・材料統合研究センター
R2. 4. 1	野城 智也	兼務	特任教授 豊島ライフスタイル寄付研究部門	教授 人間・社会系部門
R2. 4. 1	PENNINGTON MILES RICHARD MACINTOSH	兼務	特任教授 豊島ライフスタイル寄付研究部門	教授 附属価値創造デザイン推進基盤
R2. 4. 1	須田 義大	兼務	特任教授 自動運転の車両運動制御寄付研究部門	教授 機械・生体系部門
R2. 4. 1	今井公太郎	兼務	特任教授 アジア都市 TOD 寄付研究部門	教授 附属価値創造デザイン推進基盤
R2. 4. 1	金 範竣	兼務	特任教授 ウイルス医療学寄付研究部門	教授 附属マイクロナノ学際研究センター
R2. 4. 1	新野 俊樹	兼務	特任教授 未来ロボット基盤技術社会連携研究部門	教授 附属価値創造デザイン推進基盤
R2. 4. 1	坂本 慎一	兼務	特任教授 未来ロボット基盤技術社会連携研究部門	教授 人間・社会系部門
R2. 4. 1	大石 岳史	兼務	特任准教授 未来ロボット基盤技術社会連携研究部門	准教授 情報・エレクトロニクス系部門
R2. 4. 1	河野 崇	兼務	特任教授 社会課題解決のためのブレインモルフィックAI社会連携研究部門	教授 情報・エレクトロニクス系部門
R2. 4. 1	小林 正治	兼務	特任准教授 社会課題解決のためのブレインモルフィックAI社会連携研究部門	准教授 大学院工学系研究科附属システムデザイン研究センター／情報・エレクトロニクス系部門
R2. 4. 1	鹿園 直毅	兼務	特任教授 エネルギーシステムインテグレーション社会連携研究部門	教授 附属持続型エネルギー・材料統合研究センター
R2. 4. 1	大岡 龍三	兼務	特任教授 エネルギーシステムインテグレーション社会連携研究部門	教授 人間・社会系部門
R2. 4. 1	梶原 優介	兼務	特任准教授 未来志向射形成技術社会連携研究部門	准教授 機械・生体系部門

(寄付研究部門等)

発令年月日	氏名	異動内容	兼務職名・所属	本務職名・所属
R2. 4. 1	野城 智也	兼務	特任教授 デジタルスマートシティイニシアティブ社会連携研究部門	教授 人間・社会系部門
R2. 4. 1	腰原 幹雄	兼務	特任教授 デジタルスマートシティイニシアティブ社会連携研究部門	教授 人間・社会系部門
R2. 4. 1	関本 義秀	兼務	特任准教授 デジタルスマートシティイニシアティブ社会連携研究部門	准教授 人間・社会系部門
R2. 4. 1	野城 智也	兼務	特任教授 建築・都市サイバー・フィジカル・アーキテクチャ社会連携研究機構	教授 人間・社会系部門

(特任教員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 3.31	中村 崇	任期満了	-	特任教授(特定短時間)
R2. 3.31	近江 崇宏	任期満了	-	特任准教授
R2. 3.31	呉 奇	任期満了	特任講師(特定短時間)	特任講師
R2. 3.31	馬郡 文平	任期満了	特任准教授(特定短時間)	特任講師
R2. 3.31	小林 美加	任期満了	学術支援専門職員 大学院工学系研究科	特任助教
R2. 3.31	松田 匠未	任期満了	-	特任助教
R2. 3.31	安田 裕之	任期満了	助教 大学院法政政治学研究科	特任助教
R2. 3.31	崔 通	任期満了	-	特任助教
R2. 3.31	MISRA PRAKHAR	任期満了	Aakash プロジェクト研究員 大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所	特任助教
R2. 3.31	青木 佳子	任期満了	助教 人間・社会系部門	特任助教
R2. 3.31	梅本 和俊	任期満了	助教 情報・エレクトロニクス系部門	特任助教(特定短時間)
R2. 3.31	岡本 泰英	任期満了	-	特任助教(特定短時間)
R2. 4. 1	中村 孝夫	採用	特任教授 物質・環境系部門 中村研究室	-
R2. 4. 1	馬郡 文平	採用	特任准教授(特定短時間) 人間・社会系部門 馬郡研究室	特任講師
R2. 4. 1	呉 奇	採用	特任講師(特定短時間) 基礎系部門 吉川研究室	特任講師
R2. 4. 1	小南 弘季	採用	特任助教 人間・社会系部門 川添研究室	-
R2. 4. 1	WANG ZHENG	任命	特任助教 機械・生体系部門 中野研究室	特任研究員
R2. 4. 1	本間 浩章	任命	特任助教 情報・エレクトロニクス系部門 年吉研究室	特任研究員
R2. 4. 1	久保田 愛	名称変更	特任助教(特定短時間) 人間・社会系部門 今井研究室	特任研究員(特定短時間)

PERSONNEL

(特任研究員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2.3.31	SINGH GOVIND DAYAL	任期満了	-	特任研究員
R2.3.31	田子 沙織	任期満了	学術支援専門職員(特定短時間)	特任研究員
R2.3.31	小松 洋介	任期満了	-	特任研究員
R2.3.31	GONG JIANGMING	任期満了	特任研究員(特定短時間)	特任研究員
R2.3.31	楊 波	任期満了	助教 機械・生体系部門	特任研究員
R2.3.31	大和田 茂	任期満了	-	特任研究員
R2.3.31	LE TRUNG NGHIA	任期満了	特任研究員 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所	特任研究員
R2.3.31	PARK JONGHO	任期満了	助教 機械・生体系部門	特任研究員
R2.3.31	SHI JIFAN	任期満了	特任研究員 国際高等研究所ニュー ロインテリジェンス国 際研究機構	特任研究員
R2.3.31	徐 牧原	任期満了	特任研究員 国際高等研究所ニュー ロインテリジェンス国 際研究機構	特任研究員
R2.3.31	LENG SIYANG	任期満了	-	特任研究員
R2.3.31	LI YANG	任期満了	特任研究員 国際高等研究所ニュー ロインテリジェンス国 際研究機構	特任研究員
R2.3.31	伊藤 一夫	任期満了	特任研究員(特定短時間)	特任研究員
R2.3.31	鈴木 慎一	任期満了	特任研究員(特定短時間)	特任研究員
R2.3.31	高倉 俊彦	任期満了	特任研究員(特定短時間)	特任研究員
R2.3.31	福井 宗利	任期満了	特任研究員(特定短時間)	特任研究員
R2.3.31	名波 拓哉	任期満了	助教 情報・エレクトロニク ス系部門	特任研究員
R2.3.31	渡辺 宜朗	任期満了	特任研究員(特定短時間)	特任研究員
R2.3.31	KANG SOHEE	任期満了	-	特任研究員
R2.3.31	SOGUKKANLI SIBEL	任期満了	-	特任研究員
R2.3.31	松本 京子	任期満了	-	特任研究員
R2.3.31	TAREKEGNE BRUKTAWIT TAYE	任期満了	-	特任研究員
R2.3.31	PARK HAE MI	任期満了	特聘研究員 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構	特任研究員
R2.3.31	前田 紘弥	任期満了	特任研究員(特定短時間)	特任研究員
R2.4.1	薄井 雅俊	採用	特任研究員 機械・生体系部門 臼杵研究室	-
R2.4.1	梅田 学	採用	特任研究員 機械・生体系部門 須田研究室	特任研究員(特定短時間)
R2.4.1	HE AN	採用	特任研究員 機械・生体系部門 鹿園研究室	特任研究員(特定短時間)
R2.4.1	竹内 円雅	採用	特任研究員 機械・生体系部門 甲斐研究室	学術支援専門職員(特定短時間) 医科学研究所
R2.4.1	三道ひかり	採用	特任研究員 機械・生体系部門 松永研究室	-
R2.4.1	LIU TIANJI	採用	特任研究員 情報・エレクトロニク ス系部門 岩本研究室	-

(特任研究員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2.4.1	高倉 勇氣	採用	特任研究員 情報・エレクトロニク ス系部門 小林(徹)研究室	-
R2.4.1	LOUTCHKO DIMITRY UREVIC	採用	特任研究員 情報・エレクトロニク ス系部門 小林(徹)研究室	特任研究員 大学院新領域創成科学 研究科
R2.4.1	石原 拓実	採用	特任研究員 情報・エレクトロニク ス系部門 杉浦研究室	-
R2.4.1	WU JIXUAN	採用	特任研究員 情報・エレクトロニク ス系部門 小林(正)研究室	特任研究員 大学院工学系研究科
R2.5.1	徳田 大輔	採用	特任研究員 人間・社会系部門 金(炯)研究室	-

(特任専門員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2.3.31	片桐 徹	任期満了	特任専門員(再採用)	特任専門員
R2.4.1	片桐 徹	採用	特任専門員(再採用) リサーチ・マネジメン ト・オフィス	特任専門員

(特任専門職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2.4.1	藍田 実	採用	特任専門職員 総務課環境安全チーム	事務補佐員 医学部附属病院総務課 労働安全チーム

(学術支援専門職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2.3.31	松山 桃世	任期満了	准教授 人間・社会系部門	学術支援専門職員
R2.4.1	渡邊 義弘	採用	学術支援専門職員 二工歴史資料室	-
R2.4.1	有馬 みき	任命	学術支援専門職員 国際・産学連携室	学術支援職員
R2.4.30	中林 圭美	辞職	-	学術支援専門職員

(学術支援職員)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2.3.31	岩瀬代志恵	任期満了	学術支援職員(再採用)	学術支援職員
R2.4.1	鈴木 咲恵	採用	学術支援職員 情報・エレクトロニク ス系部門 佐藤研究室	技術補佐員
R2.4.1	土屋 美奈	採用	学術支援職員 物質・環境系部門 南研究室	事務補佐員
R2.4.1	岩瀬代志恵	採用	学術支援職員(再採用) 人間・社会系部門 長井研究室	学術支援職員

生産技術研究所 技術系 (退職)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2.3.31	長谷川仁則	定年退職	再雇用教職員 情報・エレクトロニクス 系部門	技術専門員 情報・エレクトロニクス 系部門

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2.4.1	築場 豊	昇任	技術専門員 物質・環境系部門 井上研究室	技術専門職員 物質・環境系部門

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2.4.1	坂下 貴史	採用	技術職員 人間・社会系部門 藤原研究室	資源開発事業等専門職員 独立行政法人石油天然 ガス・金属鉱物資源機構

PERSONNEL

(再雇用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 3.31	高間 信行	再雇用 任期満了	-	再雇用教職員 機械・生体系部門
R2. 4. 1	長谷川仁則	再雇用	再雇用教職員 情報・エレクトロニクス 系部門 大石研究室	技術専門員 情報・エレクトロニクス 系部門
R2. 4. 1	上村 光宏	再雇用 任期更新	再雇用教職員 機械・生体系部門 白樫研究室	-
R2. 4. 1	上村 康幸	再雇用 任期更新	再雇用教職員 機械・生体系部門 土屋研究室	-
R2. 4. 1	坂巻 隆	再雇用 任期更新	再雇用教職員 機械・生体系部門 巻研究室	-
R2. 4. 1	小峰 久直	再雇用 任期更新	再雇用教職員 機械・生体系部門 古島研究室	-
R2. 4. 1	野田 道雄	再雇用 任期更新	再雇用教職員 物質・環境系部門 藤岡研究室	-
R2. 4. 1	大塚日出夫	再雇用 任期更新	再雇用教職員 人間・社会系部門 腰原研究室	-

生産技術研究所 事務系

(学内異動(出))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 4. 1	平井 秀明	配置換	課長 人事部労務・勤務環境課	総務課長／研究環境調整 室副室長
R2. 4. 1	白川 哲也	昇任	副課長 総務部総務課総務チーム	総務課主査(総務チーム) ／総務チームリーダー
R2. 4. 1	内間 邦夫	配置換	席係長 農学系経理課経費執行 チーム	経理課席係長(連携 研究支援室執行チーム) ／連携研究支援室執行 チームサブリーダー
R2. 4. 1	佐々木一孝	配置換	係長 人事部人事企画課人事情 報マネジメントチーム	総務課係長(広報チーム) ／広報チームリーダー
R2. 4. 1	村上 征道	配置換	係長 農学系経理課施設整備 チーム	総務課係長(研究環境 調整室施設チーム) ／研究環境調整室施設 チームサブリーダー
R2. 4. 1	眞田 千雪	昇任	係長 定量生命科学研究所総 務チーム	総務課主任(人事・厚 生チーム)
R2. 4. 1	惣元 康夫	昇任	係長 総務部広報課報道チーム	総務課主任(研究総務 チーム)
R2. 4. 1	佐伯 祐哉	昇任	係長 教養学部等経理課財務 チーム	経理課主任(財務・監 査チーム)
R2. 4. 1	鳥村菜穂子	配置換	主任 教養学部等総務課人事 チーム	総務課主任(人事・厚 生チーム)
R2. 4. 1	飯尾 春果	配置換	主任 工学系・情報理工学系等 財務課外部資金チーム	経理課主任(連携研究 支援室企画チーム)
R2. 4. 1	油本 啓太	配置換	一般職員 財務部決算課財務分析 チーム	経理課一般職員(予算 執行チーム)
R2. 4. 1	鈴木 詩織	配置換	一般職員 財務部契約課本部調達 チーム	経理課一般職員(連携 研究支援室執行チーム)

学内異動(入)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 4. 1	鈴木 隆人	配置換	総務課係長(総務チーム) ／総務チームリーダー	係長 総務部法務課企画調査 チーム
R2. 4. 1	伊與泉文彰	昇任	総務課係長(広報チーム) ／広報チームリーダー	主任 農学系総務課総務チーム

(学内異動(入))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 4. 1	荒井 誉子	昇任	総務課係長(人事・厚生 チーム)	主任 教養学部等総務課人事 チーム
R2. 4. 1	濱田英梨子	昇任	総務課係長(国際交流 チーム)／国際交流チ ームリーダー	主任 総務部広報課報道チ ーム
R2. 4. 1	和気菜穂子	昇任	経理課係長(連携研究 支援室企画チーム)	主任 教養学部等経理課研究 支援チーム
R2. 4. 1	梁井 光	配置換	総務課主任(人事・厚 生チーム)	主任 工学系・情報理工学系 等総務課人事・給与チ ーム<職員担当>
R2. 4. 1	大内 啓彰	配置換	経理課主任(連携研究 支援室執行チーム)	主任 医学部附属病院管理課 経理チーム<契約担当>
R2. 4. 1	宇美友加里	配置換	経理課一般職員(財務・ 監査チーム)	一般職員 人事部人事企画課

(復帰)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 4. 1	山吹 尚弘	復帰	総務課長／研究環境調整 室副室長	課長 放送大学学術務部学 生課

(出向(入))

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 4. 1	藤井 政宏	出向	総務課一般職員(研究 総務チーム)	一般職員 一橋大学学務部入試課 入試係

(採用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 4. 1	辻屋 章	採用	総務課係長(研究環境調 整室施設チーム)	係長 お茶の水女子大学人事 労務課付
R2. 4. 1	末吉 陸	採用	経理課一般職員(予算 執行チーム)	-
R2. 4. 1	小山 夏実	採用	経理課一般職員(連携 研究支援室執行チーム)	-

(所内異動)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 4. 1	椎藤智香子	配置換	総務課専門員(柏地区事 務チーム)／柏地区事務 チームリーダー	専門員 附属千葉実験所事務室
R2. 4. 1	小城 哲夫	昇任	経理課席係長(連携 研究支援室執行チーム) ／連携研究支援室執行 チームリーダー	経理課係長(連携研究 支援室執行チーム)
R2. 4. 1	佐藤 貴史	命	総務課研究環境調整室 施設チームサブリーダー	-
R2. 4. 1	小越 博明	命	経理課連携研究支援室 執行チームサブリーダー	-
R2. 4. 1	渡邊 恵理	免	-	総務課国際交流チ ーム リーダー
R2. 4. 1	神 誠	免	-	経理課連携研究支援 室 執行チームリーダー

(再雇用)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 3.31	菅野 耕二	再雇用 任期満了	-	再雇用教職員 千葉実験所事務室
R2. 4. 1	三浦 弘三	再雇用	再雇用教職員 総務課柏地区事務チ ーム	副課長 産学連携部産学連携推 進課

(死亡)

発令年月日	氏名	異動内容	新職名・所属	旧職名・所属
R2. 4.10	渡邊 恵理	死亡	-	総務課席係長(国際 交流チーム)

昇任・着任のご挨拶

基礎系部門 教授
芦原 聡



4月1日付で教授に昇任いたしました。2014年の生研着任以来、短パルスレーザー開発、分光計測、量子制御を中心とする光科学研究に取り組んで参りました。その一方で、「工学とデザイン」あるいは「生研」について考える機会を頂き、視野を広げることができたことを感謝しております。いま、突如現れたウイルスの猛威に直面し、「しっかりと科学」そして「知の結集」の重要性を強く感じています。その一端を担えるよう、研究と次世代育成に力を尽くす所存です。どうぞよろしくお願いたします。

人間・社会系部門 准教授
酒井 雄也



4月1日付で准教授に昇任致しました。専門はコンクリート工学なのですが、コンクリートの原料であるセメント・砂・砂利の生産や、コンクリートの解体・処分における環境負荷を改善するため、セメントの代わりに植物やプラスチックごみを用いたコンクリートや生分解性のコンクリートなど、次世代の建設材料の開発に取り組んでおります。材料を通じて、持続可能な土木・建築の実現に貢献していきたいと考えております。今後ともよろしくお願致します。

人間・社会系部門 准教授
林 憲吾



4月16日付で准教授に昇任致しました。2020年がこれほどまでに危機の年になるとは、3年前の着任時には想像すらしていませんでしたが、新型コロナウイルスが猛威を振るい、日本でも緊急事態宣言にある中で、期せずして昇任の機会をいただいたことは、身の引き締まる思いです。私の研究分野は建築や都市の歴史ですが、歴史は混迷の時代の羅針盤でなければいけない。そう心に刻み、パンデミックが揺らぐ都市や建築の行く末を、ガラガラとは言わずとも、ほんのりと明るく照らす学問でありたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

物質・環境系部門 准教授
井上 純哉



4月16日付で大規模実験高度解析推進基盤(旧千葉実験所)の准教授に着任致しました井上です。これまで、東大内を社会基盤、マテリアル、先端研と渡り歩き、応用力学・鉄鋼冶金をベースに実験データやモデリング・シミュレーションを融合することで様々な材料の破壊機構の解明や新たな構造材料の開発に取り組んで参りました。これからは、この4月に新たにスタートしたばかりの基盤の一員として、柏ならではの研究に取り組んでいく所存ですので、ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願致します。

人間・社会系部門 特任准教授
馬郡 文平



4月1日付で、特任准教授に昇任させて頂きました。社会連携研究部門では、8年の間、野城先生、大岡先生にご指導頂き、建築エネルギーの最適化制御、AI利用を主に研究してきました。研究活動を継続できたこと、大変感謝しております。今後は、開発研究を進め、社会インフラに受け入れられるよう進める所存です。本所の先生方、研究メンバー、関係者の皆さまにおかれましては、さらなるご指導ご鞭撻を頂戴できれば幸いです。

物質・環境系部門 特任教授
中村 孝夫



4月1日付で特任教授として着任しました。これまで民間企業で酸化物や化合物半導体デバイスの開発を推進し、窒化物半導体では緑色レーザ発振・製品化やSiCを上回るダイオード特性実証などを実現してきました。直近ではNEDOにてプロジェクト採択・評価やマネージメントに従事し、より広い視野を得ました。このような背景から、生研では半導体の独自技術の社会実装を推進するテーマに取り組んでいきます。ご支援よろしくお願いたします。

人間・社会系部門 准教授
菊本 英紀



4月1日付で准教授に昇任しました。建築環境工学を専門とし、主に環境中の空気の流れやそれに伴う物質や熱の輸送現象に関わる研究を行ってきました。建築環境は、背景となる気候、物理システムとしての建築、そしてその中で生活する人々を同時に対象とする分野です。この時代この生研にいればこそできる研究を志向し、健康で快適な生活環境の創出に資する活動を行っていきたく思います。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

人間・社会系部門 准教授
松山 桃世



広報室員に着任した当初、理学・生物系の私は「総合工学研究所 生研」の多様さと奥深さに圧倒されました。3年間、広報支援を口実に先生方にお話を伺う中で、個々の研究のインパクトと先生方の熱意やお人柄に心酔し、生研の一番のファンとなり今に至ります。准教授職を拝任し、今後は広報に加えてパブリック・エンゲージメントに取り組みます。人々が自分ごととして科学や技術に興味を持ち、議論する場を作ります。生研が提案する具体的な未来像を紹介し、人々の考えを所に伝える活動です。所の認知度・価値向上に寄与すべく、微力ながら精一杯努めます。よろしくお願致します。

機械・生体系部門 准教授
山川 雄司



5月1日付で機械・生体系部門の准教授に昇任いたしました。専門分野は高速柔軟ロボティクスで、高速・柔軟をキーワードに、高速かつ器用に物体を操るダイナミックマニピュレーション、柔軟物のマニピュレーション、柔らかいロボットの開発、人間とロボットとのフィジカルインタラクション等の研究開発を進めています。現在は流動教員として情報学環が本務先となりますが、生研構成員として生研に貢献できるよう研究や教育活動等に邁進してまいります。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願申し上げます。

PERSONNEL

物質・環境系部門 講師
杉原 加織



4月1日付けで物質・環境系部門に講師として着任いたしました。生物理工学の分野で、電気生理学や原子間力顕微鏡を用いて生体膜中のタンパク質やペプチドの機能を調べています。生研には修士過程の時に2年間お世話になっており、10年以上のヨーロッパでの研究を経て再び生研で働く機会を頂けたことに感謝しております。ダイナミックな環境を生かし、企業との共同研究なども積極的に挑戦していきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

総務課長
山吹 尚弘



4月1日付けで着任いたしました。前職は放送大学学園で学生課長をしていましたが、それ以前は本学の人事部で勤務しておりました。駒場Ⅱキャンパスでの勤務はおよそ23年ぶりで懐かしさを感じております。このたび、設立70周年を迎えた歴史と多様な実績を有する生産技術研究所の一員となり身の引き締まる思いです。一日も早く皆さまのお役に立てるよう日々精進してまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

AWARDS

受賞 教員

所属・研究室	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
人間・社会系部門 川添研究室	特任助教 青木 佳子	第15回ダイワハウスコンペティション 入賞 大和ハウス工業株式会社	土地の優しさを小さく受け取るアパートメント集落	2019.11.6
基礎系部門 田中研究室	助教 高江 恭平	第14回日本物理学会 若手奨励賞 一般社団法人 日本物理学会	ソフトマターの秩序化における静電相互作用の役割	2020. 3.17
物質・環境系部門 八木研究室	准教授 八木 俊介	第78回功績賞 公益社団法人 日本金属学会	電気化学的手法に基づく金属および金属酸化物の液相合成とエネルギー変換・貯蔵材料への応用	2020. 3.17
機械・生体系部門 ソントン研究室	大木 健 (チームクロシオ) 協力研究員 中谷 武志 協力研究員 西田 祐也 准教授 Blair Thornton	水路技術奨励賞 一般財団法人 日本水路協会	海中ロボットによる海底観測において母船からの通信を行うことなくロボットのみによる観測方法を開発	2020. 3.18
物質・環境系部門 南研究室	准教授 南 豪	進歩賞 公益社団法人 日本化学会	超分子センサーの設計と光学チップ・有機デバイスへの応用	2020. 3.23
機械・生体系部門 須田研究室	須藤 裕之 村本 圭 米田 修 (トヨタ自動車株式会社) 特任研究員 河野 賢司 元修士学生 菅 瞭介 教授 須田 義大	第28回交通・物流部門大会 部門大会賞 日本機械学会 交通・物流部門	空間電位変動を利用した歩行検知の特性向上	2020. 3.27
情報・エレクトロニクス系部門 年吉研究室	特任助教 本間 浩章	電気学会優秀論文発表賞 一般社団法人 電気学会	令和元年における優秀論文発表	2020. 4. 1
情報・エレクトロニクス系部門 小林(正)研究室	准教授 小林 正治	令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞 文部科学省	次世代強誘導体による革新的トランジスタおよびメモリの研究	2020. 4. 7
物質・環境系部門 南研究室	准教授 南 豪	令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞 文部科学省	超分子の分子認識能に基づく化学センサデバイスに関する研究	2020. 4. 7
人間・社会系部門 水谷研究室	准教授 水谷 司	令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞 文部科学省	インフラの状態把握のための革新的計測情報処理技術の研究	2020. 4. 7

●受賞決定時の職名(学年)を記載しています。

受賞 学生

所属・研究室	職・氏名	受賞名・機関	受賞項目	受賞日
人間・社会系部門 大岡研究室	博士課程1年 林 超	2019年度日本風工学会優秀修士論文賞 一般社団法人 日本風工学会	単体建物周辺における高温排気ガスの拡散予測に関する研究	2020. 2.25
情報・エレクトロニクス系部門 喜連川研究室	修士課程2年 別所祐太郎	オンラインプレゼンテーション賞 第12回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム	動的障害回復が可能な分析系並列データベースシステムの評価試験と考察	2020. 3. 4
情報・エレクトロニクス系部門 豊田研究室	修士課程1年 塚田涼太郎	オンラインプレゼンテーション賞 第12回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム	マイクロログおよび携帯電話人口統計を用いた大規模イベント会場における人口変化の長期予測	2020. 3. 4
基礎系部門 戸原研究室	博士課程1年 岡崎 大樹 修士課程2年 荒井 隼人 (工学系研究科) 教授 Esko Kauppinen (Aalto University, フィンランド) 准教授 千足 昇平 教授 丸山 茂夫 (工学系研究科) 准教授 戸原 聡	第47回(2019年秋季)応用物理学会講演奨励賞 公益社団法人 応用物理学会	単層カーボンナノチューブフィルムを用いたCr ²⁺ :ZnS中赤外モード同期レーザーⅡ	2020. 3.12
情報・エレクトロニクス系部門 吉永研究室	修士課程2年 杉山 普	言語処理学会第26回年次大会若手奨励賞 言語処理学会	出力と文脈の自己相互情報量に基づく文脈翻訳	2020. 3.16
機械・生体系部門 巻研究室	修士課程2年 濱松 祐矢 修士課程2年 藤田 健一 修士課程2年 谷田 具浩也	新領域創成科学研究科長賞(国際交流部門) 東京大学大学院新領域創成科学研究科	水中ロボット競技会を通じた国際交流活動	2020. 3.18
情報・エレクトロニクス系部門 杉浦研究室	博士課程1年 中井 陵太	第35回電気通信普及財団賞 テレコムシステム技術学生賞 公益財団法人 電気通信普及財団	ジャーナル論文 Physical layer security in buffer-state-based max-ratio relay selection exploiting broadcasting with cooperative beamforming and jamming.	2020. 3.19
機械・生体系部門 中野研究室	修士課程2年 高岡 昇平	武蔵栄次賞優秀学生賞 日本設計工学会	ドライバの周辺視を活用した情報提示手法の評価	2020. 3.23
情報・エレクトロニクス系部門 岩本研究室	修士課程2年 吉見 拓展	優秀修士論文賞 東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻	パレーフォトニック結晶を用いたトポロジカルスローライト導波路の設計および作製・評価に関する研究	2020. 3.23

●受賞決定時の職名(学年)を記載しています。

AWARDS

受賞のことば

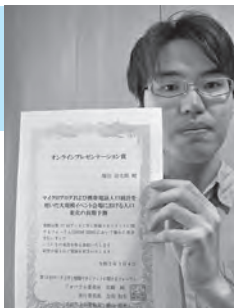
人間・社会系部門
大岡研究室 博士課程1年
林 超

この度は、2019年度日本風工学会優秀修士論文賞をいただき、大変光栄に思います。本研究では、市街地内で特徴となる単体建物に設置される非常用発電機からの排気ガスを想定し、極めて高温かつ汚染物質を高い濃度で含むガスの大気中拡散に関して、風洞実験および数値流体解析を行い、高温排気ガスの環境影響を評価できる指針を創出するための知見を蓄積しました。本研究にあたりご指導いただいております大岡龍三教授をはじめ、研究活動を支えてくださっている皆様へ心より感謝いたします。また、今回の受賞に満足・慢心することなく、引き続き研究活動に専心する所存です。



情報・エレクトロニクス系部門
豊田研究室 修士課程1年
塚田 涼太郎

この度、第12回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム(DEIM2020)にてオンラインプレゼンテーション賞をいただき、大変光栄に存じます。本研究では、マイクロログ上の投稿と、過去の混雑度からなる異種データを用いて、大規模イベント会場の人口変化の長期予測の精度を改善する手法を提案しました。受賞に際しまして、日頃より懇切丁寧にご指導いただいております豊田正史教授をはじめ、研究室の皆様へ心より感謝申し上げます。



情報・エレクトロニクス系部門
吉永研究室 修士課程2年
杉山 普

言語処理学会第26回年次大会において、若手奨励賞を受賞いたしました。本発表では、文を翻訳する際に広い文脈を参照することで、より妥当な翻訳を選択する機械翻訳の手法を提案いたしました。ご助言を賜りました吉永直樹准教授と研究室の皆様へ、厚く御礼申し上げます。



情報・エレクトロニクス系部門
杉浦研究室 博士課程1年
中井 陵太

このたびは、第35回電気通信普及財団賞テレコムシステム技術学生賞をいただき、大変光栄です。受賞対象となった原著論文では、将来のIoTネットワークにおいて、暗号を用いることなく情報理論的に保証された秘匿性を実現するための手法を提案いたしました。ご指導いただいている杉浦慎哉准教授と、研究活動を支えていただいている皆様へ深く感謝申し上げます。



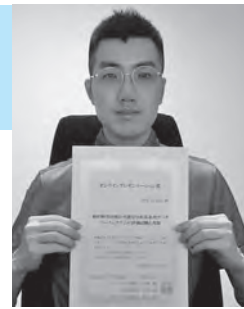
情報・エレクトロニクス系部門
岩本研究室 修士課程2年
吉見 拓展

この度、工学系研究科電気系工学専攻の優秀修士論文賞を受賞いたしました。このような賞をいただき大変光栄に思います。本研究では、パレーフォトニック結晶とよばれる新規光制御構造を用いて、光の群速度が著しく小さくなるスローライト伝搬を実験的に実証しました。小型・低損失な集積光導波路等への応用が期待されます。懇切丁寧にご指導を賜りました岩本敏教授をはじめとして、お世話になった皆様へ深く御礼申し上げます。



情報・エレクトロニクス系部門
喜連川研究室 修士課程2年
別所 祐太朗

2020年3月開催のデータ工学と情報マネジメントに関するフォーラムにて研究発表を行い、オンラインプレゼンテーション賞を頂きました。サーバを並列駆動して問合せを実行するデータベースシステムのための耐障害性の高い実行方式を提案し、その実験結果と考察について発表させていただきました。ご指導を下さった早水悠登先生、合田和生先生、喜連川優先生、そして研究会で貴重なご意見を下さった先生方と参加者の皆様へ厚く感謝申し上げます。



基礎系部門
芦原研究室 博士課程1年
岡崎 大樹

この度、2019年第80回応用物理学会秋季学術講演会において、講演奨励賞を受賞させていただきました。大変光栄に思います。本研究の成果は、指導教員である芦原聡先生をはじめ、研究室の皆様や共同研究先の方々など、非常に多くの方々のご理解・ご協力があったものです。今回の受賞を励みに、今後とも研究に邁進したいと思います。



機械・生体系部門
巻研究室 修士課程2年
濱松 祐矢
藤田 健一
谷田貝 浩也

この度は、令和2年新領域創成科学研究科長賞(国際交流部門)をいただきました。我々Team Clairvoyanceは、水中ロボコンの国際大会へ複数回出場し、また出場後にはOES Letterへの寄稿や海中海底工学フォーラムZEROでの講演を通して、水中ロボットを始めとする海洋工学の更なる発展に寄与できるように努めてきました。本受賞に際しまして、ご指導いただいた巻俊宏准教授や研究員の皆様、そして杉松治美様をはじめとするIEEE/OES Japan Chapterの皆様へ厚く感謝申し上げます。



機械・生体系部門
中野研究室 修士課程2年
高岡 昇平

この度は、2019年度本学工学系研究科機械工学専攻修了にあたりまして、日本設計工学会武藤栄次賞優秀学生賞を頂き、大変光栄に思います。修士論文ではヒトの視野である周辺視野に着目し、その基礎的な認知特性についての検討を行い、認知特性に適した周辺視野への情報提示を行う自動車ドライバ用HMIによる運転中の負荷の抑制や周囲状況認知の向上効果を評価しました。中野公彦先生をはじめ、研究活動を支えてくださった研究室の皆様へ心より御礼申し上げます。



■ 常務委員会および各種委員会委員長一覧

令和2年度常務委員会および各委員会委員長は下記のとおりです。

令和2年度常務委員会

委員 令和2年4月1日改選（任期1年）

氏名	所 属
半場 藤弘	基礎系
枝川 圭一	〃
林 昌奎	機械・生体系
中野 公彦	〃
河野 崇	情報・エレクトロニクス系
高宮 真	〃
溝口 照康	物質・環境系
藤岡 洋	〃
坂本 慎一	人間・社会系
竹内 渉	〃

令和2年度各種委員会委員長

役 職	氏 名
常務委員会議長	岸 利治
企画運営室長	竹内 渉
リサーチ・マネジメント・オフィス室長	町田 友樹
次世代育成オフィス室長	大島 まり
広報室長	佐藤 洋一
国際・産学連携室長	平本 俊郎
特別研究審議委員会委員長	志村 努
キャンパス公開実行委員会委員長	佐藤 洋一
キャンパス・施設委員会委員長	年吉 洋
キャンパス・施設部会長	大岡 龍三
スペース管理専門部会長	小倉 賢
施設管理専門部会長	大岡 龍三
実験施設運営管理専門部会長	小倉 賢
クリーンルーム設備管理運営分科会主査	平川 一彦
水槽設備管理分科会主査	林 昌奎
次世代モビリティ研究設備管理分科会主査	須田 義大
振動台及び静的載荷装置等関連設備管理分科会主査	川口 健一
安全管理委員会委員長	岸 利治
防災・安全部会長	工藤 一秋
防災専門部会長	目黒 公郎
環境安全管理専門部会長	工藤 一秋
環境安全管理室長	工藤 一秋
バイオサイエンス安全専門部会長	竹内 昌治
放射線安全専門部会長	井上 博之
遺伝子組換え生物等安全委員会委員長	竹内 昌治
動物実験委員会委員長	竹内 昌治
研究用微生物委員会委員長	竹内 昌治
ユーティリティー委員会委員長	井上 博之
情報倫理審査会主査	高橋 琢二
大規模実験高度解析推進基盤運営会議委員長	北澤 大輔
価値創造デザイン推進基盤運営会議委員長	新野 俊樹
情報委員会委員長	井上 博之
データベース部会長	関本 義秀
情報セキュリティ部会長	吉江 尚子
利益相反アドバイザー機関委員長	平本 俊郎
知的財産室長	白樫 了
厚生健康委員会委員長	小倉 賢
技術職員等研修委員会委員長	腰原 幹雄
予算委員会委員長	平本 俊郎
教育・学務委員会委員長	福谷 克之
レビュー制度委員会委員長	酒井 啓司
二工歴史資料室長	吉江 尚子
70周年記念事業特別委員会委員長	岡部 徹
第三者評価特別委員会委員長	岸 利治

My stay in a beautiful environment

物質・環境系部門 国際研究員 LEVI, Timothée

I am an Associate Professor at University of Bordeaux, France since 2009. I was a JSPS post-doctoral researcher between 2008 and 2009 at IIS with the supervision of Prof. Kohno. I was also a visiting scientist from 2013 to 2015 at LIMMS/IIS at Fujii lab.

Since 2017, it was a great honor to become a Project Associate Professor at IIS. I worked on Brain Neuromorphic Artificial Intelligence in collaboration with NEC Corporation. We developed neuromorphic systems for new AI with Prof. Aihara and Prof. Kohno and for biomedical application with Prof. Ikeuchi and Prof. Fujii.



During these 3 years, I lived wonderful research experience at IIS but also outside science projects like the organization of the Fashion Week¹, projects with Design Lab² and workshops with University of Bordeaux³.

A strong link has been created between IIS and University of Bordeaux with the MoU signature and I hope this collaboration will last long time with fruitful exchanges⁴.



左から2人目が LEVI, Timothée 国際研究員

I also had a chance to visit Japan, which is a really beautiful country with a lot of different landscapes like Hokkaido or Okinawa. I love Japanese culture and the kindness and benevolence of Japanese people.

I will finish this article by thanking all lab members and my students, the IIS members for their administrative, research and everyday life supports. I would like also to give a special thanks to Prof. Kohno who always believes in me. We created strong research links but also friendship.

1 : https://m.youtube.com/watch?feature=youtu.be&v=QPpTIV_Lm6c

2 : <https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/event/moshikasuru/en/>

3 : <https://www.u-bordeaux.com/News/Bordeaux-Tokyo-joint-workshop>

4 : <https://www.u-bordeaux.com/News/A-partnership-that-benefits-both-education-and-research-across-continent>

大規模機械学習によるアピランスベース視線推定

情報・エレクトロニクス系部門 准教授 菅野 裕介



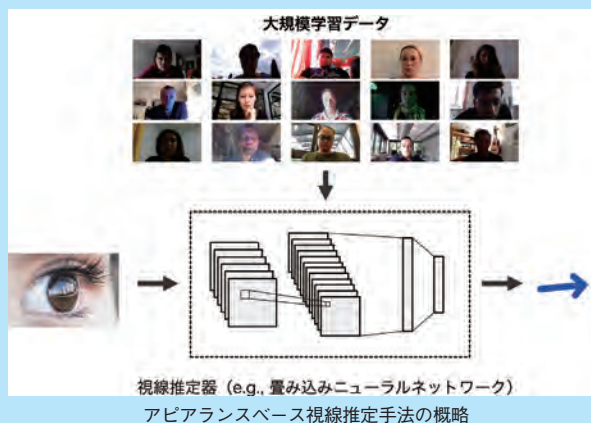
人の視線は、その人物の視覚的注意やそれに関連するような内部状態、人物属性を知る上で重要な情報となります。視線を計測・推定するための技術は、マーケティング調査や医学的診断、ハンズフリー入力など様々な応用を見越して古くから活発な研究開発が行われてきました。例えば、欧州委員会では2019年に可決された安全運転支援に関する規制案ではドライバーの眠気・注意散逸警告システムの搭載が義務付けられることになっており、このようなドライバーの注意解析も視線計測・推定の重要な応用先の一つになります。しかしながら、眼球領域を捉えた高解像度のカメラと近赤外光源を用いる古典的な視線計測技術には計測対象の人物と装置の相対的な位置関係、および計測時の照明条件に大きな制限があり、適用できる範囲が限られるという問題があります。車載装置のような、計測対象人物に対するカメラ設置場所に制限があり多様な照明条件下で頑健に動作することが求められる応用シナリオに対しては、既存計測手法の適用は難しいのが現状でした。

私達の研究室では、画像入力と機械学習を利用した視線推定手法の開発に取り組んでいます。通常のカメラを用いて撮影された顔画像のみを入力として人物の視線方向を推定する手法自体は古くから研究が行われてきましたが、従来主流だった眼球モデルの当てはめを前提としたアプローチも推定の頑健性に問題を抱えていました。これに対して私達は、コンピュータビジョンの分野における大規模機械学習・深層学習手法の発展を受け

る形で、大量の学習データから人物非依存の視線推定関数を学習するアピランスベースのアプローチを提案してきました。

アピランスベース手法の特徴は、従来手法で技術的なボトルネックとなっていた幾何的な特徴抽出を行わず、目画像や顔画像そのものを入力パターンとした純粋な機械学習タスクとして画像から視線方向を直接マッピングすることにあります。初期のアピランスベース手法は個人に特化した小規模な学習を行っていたため実用性に乏しかったのですが、大規模な学習データから人物非依存の視線推定関数を学習するアプローチが試みられたことで改めて注目を集めることになりました。私達がこれまで発表したデータセットはこうした取り組みの中でも最初期のものであり、深層学習をアピランスベースの視線推定タスクに応用した最初の例になっています。

このようなアピランスベース手法の難しさは、多種多様な人物・環境に対して常に一定の精度が要求される点にあります。学習・ベンチマークデータセットに最適化するだけでは不十分な枠組みを設計することも必要になります。私達の研究室ではデータセット構築や学習手法の開発だけではなく、アピランスベース手法の利点を活かした応用シナリオやユーザー・周辺環境とのインタラクション設計などより大局的・学際的な観点から手法の開発に取り組むことでこの課題に挑戦しています。



■編集後記■

本号について表紙写真の撮影遅延などにより発行が遅れましたことお詫び申し上げます。3月末から日本でも新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、本所構成員の方々も在宅勤務への移行や研究活動の休止、オンライン講義への対応など大きな影響を受けていると思います。私の専門分野は情報系で研究活動への影響は少ないのですが、主な成果発表の場が国際会議であることから異なる時間帯で活動する研究者がオンラインでどう同期して議論を行えるよ

うにするか苦慮しています。

このようにオンラインでの活動が主体となる中で、何となく、物事の大切さへの距離感が失われつつあることが気になっています。研究室を運営する教員としては特に、オフラインで会っていない新入生のことを心に留めておく必要があると考えています。今後しばらくはオンライン主体で研究活動を行う予定ですが、新入生同士がオフラインで集まる機会を作った方が良いかな、と考えたりします。(吉永 直樹)

■広報室

〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1
東京大学生産技術研究所
☎ (03) 5452-6017 内線 56018、56864

■編集スタッフ

佐藤 洋一・今井公太郎・梶原 優介・梅野 宣崇
岡部 洋二・吉永 直樹・砂田 祐輔・林 憲吾
松山 桃世・伊東 敏文・楠井 美緒・寺岡 依里
木村真貴子

E-mail: iis-news@iis.u-tokyo.ac.jp
生研ホームページ

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/>

生研ニュースはweb上でもご覧

いただけます

https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/about/publication/seiken_news/

